

株主メモ

事業年度 毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会 毎年5月に開催
期末配当金基準日 毎年2月末日
中間配当金基準日 毎年8月31日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号（〒530-0004）
（お問い合わせ先） 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話0120-094-777（通話料無料）

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
○受付電話（通話料無料）0120-244-479（本店証券代行部）
0120-684-479（大阪証券代行部）
○インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公告方法 電子公告といたします。
公告掲載URL <http://www.poplar-cvs.co.jp/>
（ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部
証券コード 7601

当社ホームページのご紹介

<http://www.poplar-cvs.co.jp/>

当社に関する様々な情報を
公開しております。



株主の皆様へ

第34期中間報告書

平成20年3月1日から平成20年8月31日まで



お客様に支持されるNo.1コンビニを目指し、競争力の強化、収益力の向上に取り組んでまいります。



代表取締役社長
目黒 真司

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

ここに当社グループ第34期中間連結会計期間（平成20年3月1日から平成20年8月31日まで）の事業の概況と決算につきまして、ご報告申し上げます。

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、原油価格の高騰や穀物価格の高騰等による個人消費の低迷やサブプライムローンによる米国をはじめとする国際的な金融不安の影響により低調に推移しました。

コンビニエンスストア業界におきましても、Taspo効果や猛暑の影響により、前年を上回る売上で推移いたしましたが、オーバーストアによる競合の激化や異業種との競合等は依然として続いており、厳しい状況が継続しております。

このような状況のもと、当社は、「お客様

第一」を実現できる競争力のある企業となるべく事業を展開してまいりました。本年6月より新しい体制のもと、業務改善を図るために、各部門のプロジェクトチームを編成し、業務改善に向けて注力してまいりました。当社の強みは残しながら、既成概念を捨て営業主導型の企業に変革することを主眼に置き、新たなステージのスタートに立つためのチャレンジを続けてまいります。

このような施策を行い、関東地区では、新しく7店舗の出店、10店舗の閉店を行い、中間連結会計期間末店舗数は、190店舗となり、関西地区では、2店舗の出店、2店舗の閉店を行い、中間連結会計期間末店舗数は、50店舗となりました。また、北陸地区では、新しく1店舗の出店、1店舗の閉店を行い、中間連結会計期間末店舗数は、37店舗となり、中四国地区では、新しく5店舗の出店、

22店舗の閉店を行い、中間連結会計期間末店舗数は、314店舗となり、九州地区では、新しく2店舗の出店、5店舗の閉店を行い、中間連結会計期間末店舗数は、141店舗となりました。その結果、当中間連結会計期間の新規出店店舗数は17店舗（閉店40店舗、純減23店舗）、当中間連結会計期間末現在の店舗数は、732店舗となりました。

これらの結果、当中間連結会計期間における当社のチェーン全店売上高は54,077百万円（前年同期比0.2%増）、当社グループの連結業績は、営業総収入32,133百万円（同1.3%増）、営業利益600百万円（同23.8%増）、経常利益630百万円（同24.1%増）、また、中間純損失は、2,513百万円となりました。

下半期の経済状況は、世界的な金融不安による景気後退の影響や、原油を始めとする資源の高騰と輸出の鈍化など企業収益の圧迫に

よる個人消費の低迷が懸念され、当社コンビニエンスストア事業を取り巻く経営環境は依然厳しい環境が続くと予測されます。

このような状況下、当社グループは更なる業務改善に着手し、企業体質の改善を進めてまいります。

また、既存店舗の競争力強化のために店舗改装などの活性化を図る施策を進め、営業力の強化を図ってまいります。当社グループといたしましては厳しい環境を生き残るため、今後とも変革や機能の強化を図る努力を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年11月

ポプラの出店戦略及び事例紹介

ポプラでは現在、ガソリンスタンドや自衛隊駐屯地といった「特殊立地」への店舗出店についても積極的に進めております。立地特性を活かすために、これまでのコンビニの品揃えに捉われず、通常のコンビニアイテムに加え、その立地に合ったプラスαの商品を取り揃え又店構えにも工夫を凝らすことで、お客様に必要とされる、地域に密着した店舗を目指しています。

(ポプラ 防府北基地店)



自衛隊駐屯地内の売店をコンビニ化した事例です。隊員の方々の福利厚生を含めた施設となっております。また、基地ならではの商品も充実しております。

(ポプラ 千葉新港店)



ガソリンスタンドの売店にコンビニとして出店いたしました。既存の売店にコンビニ機能を付加した店舗となっております。また、イートインスペースを設置し、給油されるお客様へのサービス向上を考えた店作りとなっております。

<生活彩家>

生活彩家は、都心部のビルトインを中心に展開しておりますので、オフィス街に溶け込むようなシックな外観と内装、商品構成で店舗展開しております。

(生活彩家 赤坂店 -S.P.STATION-)



通常のコンビニとは違う、新しい空間をお客様にご提供することをコンセプトとした店舗です。店内にはゆっくりくつろげる喫煙スペースや休憩スペースも設置しております。休憩スペースにおいては体験プロモーション(現在は美顔器の体験使用)を実施しております。

(生活彩家 都営本八幡駅店)



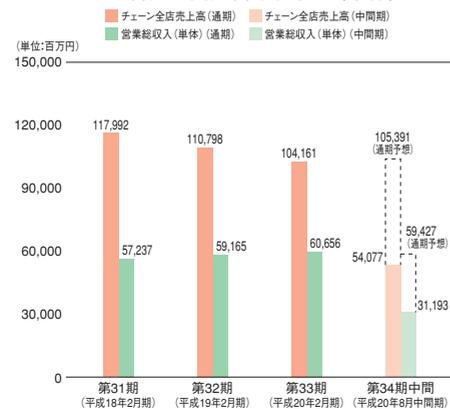
地下鉄の定期券発売所にコンビニの売場を付加した店舗例です。店舗規模は12坪と小さいですが、改札口のすぐそばという立地を活かし、多くの方々に利用していただいております。

このようにポプラでは、これまでにない場所へ店舗進出し、潜在ニーズを掘り起こすことにより、新たなビジネスチャンスの創造にも努めております。現在のコンビニ業界は競合他社との競争がとて激しくなっておりますが、これからも「お客様第一」という視点で様々なサービスをカタチにする事業展開を推進し、お客様のニーズに応えてまいります。

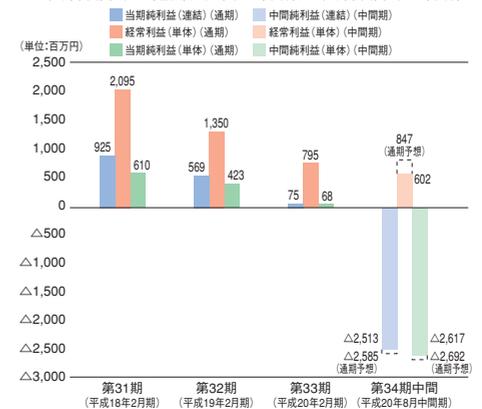
回次	第31期中間	第32期中間	第33期中間	第34期中間	第31期	第32期	第33期	
決算年月	平成17年8月期	平成18年8月期	平成19年8月期	平成20年8月期	平成18年2月期	平成19年2月期	平成20年2月期	
連結	営業総収入(百万円)	33,150	31,750	31,720	32,133	64,377	62,179	62,333
	経常利益(百万円)	1,199	911	508	630	1,976	1,428	810
	中間(当期)純利益又は中間純損失(Δ)(百万円)	191	319	27	△ 2,513	925	569	75
	1株当たり中間(当期)純利益又は中間純損失(円)	21.20	33.30	2.71	△ 252.59	102.40	58.08	7.53
単体	チェーン全店売上高(百万円)	61,852	57,631	53,955	54,077	117,992	110,798	104,161
	営業総収入(百万円)	29,126	30,232	31,083	31,193	57,237	59,165	60,656
	経常利益(百万円)	1,307	925	495	602	2,095	1,350	795
	中間(当期)純利益又は中間純損失(Δ)(百万円)	329	334	20	△ 2,617	610	423	68
	1株当たり純資産額(円)	1,145.55	1,192.71	1,178.38	901.01	1,167.33	1,188.97	1,173.23
	1株当たり中間(当期)純利益又は中間純損失(Δ)(円)	36.46	34.87	2.08	△ 262.98	67.62	43.21	6.88
	1株当たり中間(年間)配当額(円)	12.00	12.00	12.00	—	24.00	24.00	24.00

(注) 営業総収入は、売上高と営業収入を合計したものです。

■チェーン全店売上高/営業総収入(単体)



■当期(中間)純利益(連結)/経常利益(単体)/当期(中間)純利益(単体)



中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前事業年度
	平成20年8月31日現在	平成20年2月29日現在
【資産の部】		
流動資産		
現金及び預金	5,012	2,470
受取手形及び売掛金	97	155
加盟店貸勘定	558	296
有価証券	3,500	—
たな卸資産	1,705	1,774
その他	1,421	1,771
貸倒引当金	△ 4	△ 4
流動資産合計	12,291	6,463
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,468	6,058
器具備品	720	1,043
その他	26	30
土地	3,780	4,089
建設仮勘定	9	86
有形固定資産合計	9,004	11,308
無形固定資産		
投資その他の資産	163	400
投資有価証券	426	415
長期貸付金	705	715
敷金・保証金	4,186	4,319
繰延税金資産	547	555
その他	535	612
貸倒引当金	△ 861	△ 859
投資その他の資産合計	5,539	5,758
固定資産合計	14,707	17,468
資産合計	26,998	23,931

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	当中間期	前事業年度
	平成20年8月31日現在	平成20年2月29日現在
【負債の部】		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,474	3,426
加盟店買掛金	4,784	1,738
短期借入金	112	112
未払金	1,226	678
未払法人税等	77	167
賞与引当金	110	113
預り金	2,008	1,898
その他	743	680
流動負債合計	14,536	8,816
固定負債		
長期借入金	160	216
退職給付引当金	399	394
長期預り金	2,627	2,771
その他	168	26
固定負債合計	3,355	3,408
負債合計	17,892	12,225
【純資産の部】		
株主資本		
資本金	2,410	2,410
資本剰余金	2,650	2,650
利益剰余金	4,049	6,682
自己株式	△ 71	△ 71
評価・換算差額等	68	34
その他有価証券評価差額金	68	34
純資産合計	9,106	11,705
負債・純資産合計	26,998	23,931

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成20年3月1日から平成20年8月31日まで	平成19年3月1日から平成19年8月31日まで
売上高	29,391	28,918
営業収入	2,742	2,802
売上原価	23,113	22,888
営業総利益	9,020	8,832
販売費及び一般管理費	8,419	8,347
営業利益	600	484
営業外収益	50	61
営業外費用	19	37
経常利益	630	508
特別利益	72	28
特別損失	3,121	365
税金等調整前中間純利益又は中間純損失(△)	△2,418	171
法人税、住民税及び事業税	52	72
還付法人税等	△ 39	—
法人税等調整額	81	71
少数株主利益	—	0
中間純利益又は中間純損失(△)	△2,513	27

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書

当中間期(平成20年3月1日から平成20年8月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資本 合計		
平成20年2月29日残高	2,410	2,650	6,682	△ 71	11,671	34	11,705
中間連結会計期間中の変動額							
剰余金の配当			△ 119		△ 119		△ 119
中間純損失			△ 2,513		△ 2,513		△ 2,513
自己株式の取得				△ 0	△ 0		△ 0
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						34	34
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△ 2,633	△ 0	△ 2,633	34	△ 2,599
平成20年8月31日残高	2,410	2,650	4,049	△ 71	9,038	68	9,106

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

単体財務諸表

中間貸借対照表（単体）

科 目	当中間期	前事業年度
	平成20年8月31日現在	平成20年2月29日現在
【資産の部】		
流動資産		
現金及び預金	4,848	2,285
加盟店貸勘定	558	296
有価証券	3,500	—
たな卸資産	1,309	1,339
その他	1,514	1,878
貸倒引当金	△ 1	△ 2
流動資産合計	11,729	5,797
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,314	5,874
器具備品	715	1,035
その他	25	28
土地	3,560	3,869
建設仮勘定	9	86
有形固定資産合計	8,624	10,895
無形固定資産		
	154	264
投資その他の資産		
投資有価証券	478	596
長期貸付金	1,333	1,388
敷金・保証金	4,145	4,277
繰延税金資産	547	601
その他	251	328
貸倒引当金	△ 768	△ 704
投資その他の資産合計	5,988	6,488
固定資産合計	14,767	17,648
資産合計	26,496	23,445

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前事業年度
	平成20年8月31日現在	平成20年2月29日現在
【負債の部】		
流動負債		
支払手形	88	113
買掛金	5,124	2,969
加盟店買掛金	4,784	1,738
加盟店借勘定	43	72
短期借入金	112	112
未払金	1,216	662
未払法人税等	75	163
預り金	1,994	1,882
賞与引当金	106	109
その他	689	602
流動負債合計	14,236	8,426
固定負債		
長期借入金	160	216
退職給付引当金	365	358
預り保証金	2,035	2,152
預り敷金	511	538
その他	219	77
固定負債合計	3,292	3,343
負債合計	17,529	11,769
【純資産の部】		
株主資本		
資本金	2,410	2,410
資本剰余金	2,649	2,649
利益剰余金	3,979	6,715
自己株式	△ 71	△ 71
評価・換算差額等	0	△ 27
その他有価証券評価差額金	0	△ 27
株主資本合計	8,966	11,703
純資産合計		
	8,966	11,676
負債・純資産合計	26,496	23,445

中間損益計算書（単体）

科 目	当中間期	前中間期
	平成20年3月1日から平成20年8月31日まで	平成19年3月1日から平成19年8月31日まで
売上高	28,459	28,319
営業収入	2,734	2,763
売上原価	22,497	22,471
営業総利益	8,695	8,611
販売費及び一般管理費	8,097	8,096
営業利益	598	514
営業外収益	54	64
営業外費用	50	84

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成20年3月1日から平成20年8月31日まで	平成19年3月1日から平成19年8月31日まで
経常利益	602	495
特別利益	72	23
特別損失	3,152	356
税引前中間純利益又は中間純損失(△)	△ 2,477	161
法人税、住民税及び事業税	50	69
還付法人税等	△ 39	—
法人税等調整額	127	71
中間純利益又は中間純損失(△)	△ 2,617	20

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間株主資本等変動計算書（単体）

当中間期（平成20年3月1日から平成20年8月31日まで） (単位：百万円)

	株主資本					利益剰余金合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計	
		別途積立金	繰越利益剰余金			
平成20年2月29日残高	2,410	2,649	77	3,941	2,696	6,715
中間会計期間中の変動額						
剰余金の配当					△ 119	△ 119
中間純損失					△ 2,617	△ 2,617
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額（純額）						
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	△ 2,736	△ 2,736
平成20年8月31日残高	2,410	2,649	77	3,941	△ 39	3,979

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
平成20年2月29日残高	△ 71	11,703	△ 27	11,676
中間会計期間中の変動額				
剰余金の配当		△ 119		△ 119
中間純損失		△ 2,617		△ 2,617
自己株式の取得	△ 0	△ 0		△ 0
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額（純額）			27	27
中間会計期間中の変動額合計	△ 0	△ 2,736	27	△ 2,709
平成20年8月31日残高	△ 71	8,966	0	8,966

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (平成20年8月31日現在)

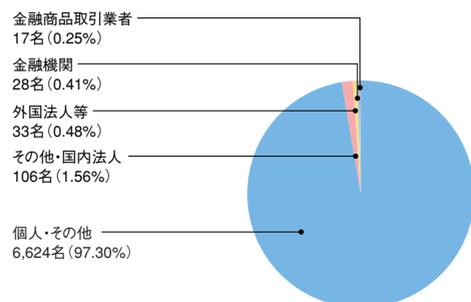
発行可能株式総数	36,160,072株
発行済株式の総数	10,040,018株
株主数	6,808名
前期（第33期）末に比べ、65名増加しました。	

大株主（上位10名）

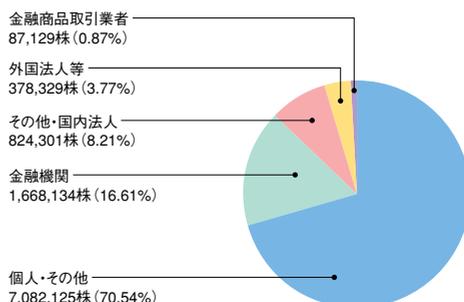
株主名	持株数	出資比率
目黒 俊治	2,866,444株	28.80%
ポプラ協栄会	1,042,609	10.48
ポプラ社員持株会	271,831	2.73
株式会社広島銀行	212,960	2.14
日本生命保険相互会社	207,460	2.08
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー505019	184,700	1.86
東京海上日動火災保険株式会社	159,720	1.60
林 武成	156,237	1.57
三菱UFJ信託銀行株式会社	133,100	1.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (りそな信託銀行株式会社再信託分・株式会社もみじ銀行退職給付信託口)	125,800	1.26

(注) 出資比率は自己株式（87,940株）を控除して計算しております。

所有者別株主分布状況



所有者別株式分布状況



会社の概況 (平成20年8月31日現在)

●社名	株式会社ポプラ
●本社	〒731-3395 広島市安佐北区安佐町大字久地665-1
●資本金	24億1,013万7,725円
●設立	昭和51年（1976年）4月20日
●チェーン店舗数	732店舗
●従業員数	594名
●主要な事業内容	当社は、フランチャイズチェーンシステムによるコンビニエンスストアの経営を主要業務として営んでおります。

役員

取締役会長 (代表取締役)	目黒 俊治	常勤監査役	相良 勝彦
取締役社長 (代表取締役)	目黒 真司	社外監査役	臼田 耕造
常務取締役	宮崎 進	社外監査役	大野 勝美
取締役	野村 一雄		
取締役	市村 英世		

子会社

会社名	資本金(千円)	出資比率(%)	主要な事業内容
大黒屋食品株式会社	10,000	100	珍味卸売業
株式会社キリン堂薬局	12,000	100	ドラッグストアの経営
ポプラ保険サービス有限会社	3,000	(注) 100 (73.3)	損害保険代理業
株式会社ポプラ企画	1,000	100	不動産管理業

(注) 出資比率には、間接所有分（ ）を含めて記載しております。

なお、その内訳は、当社26.6%、大黒屋食品株式会社36.7%、株式会社キリン堂薬局36.7%となっております。

第34期中間決算について

Q. 営業利益・経常利益が予想より大きく上回りましたが、どうしてですか？

- A. Taspo導入の第2エリアが当社の出店エリアだったこともあり、5月から売上高が増加しております。タバコの売上が上がるとともに他のカテゴリーの商品も相乗効果で売上が上がっており、前年同期を上回る売上の増加となりました。また、繁忙期である夏季の気温が高かったことも相乗効果となり売上高を押し上げました。
- このような要因で大きく上回っております。

Q. 特別損失を大きく出されたようですが、具体的にはどのような損失を計上されたのですか？

- A. 今期より新体制による業務改革を進めており、社内の再評価を実施してまいりました。今般の厳しいCVS業界に生き残るためには現況に合ったより厳しい基準で不採算部門を見るべきだと考えており、減損損失の計上はタイムリーな処理を進めた結果です。
- 具体的には、直営店舗の減損損失（総額2,205百万円）、土地の減損損失（309百万円）、子会社株式評価損（117百万円）等を特別損失として計上いたしました。
- これにより経営基盤の安定化を図るとともに健全な財務内容でのスタートが可能になると判断しております。

Q. 減損損失とは何ですか？

- A. 「固定資産の減損に係る会計基準」の導入により、2006年3月期から適用となりました減損会計に基づくもので、店舗等の資産の収益性が低下して投資額の回収が見込めなくなった場合に、その資産の帳簿価額にその価値の下落を反映させる手続きをいいます。減損処理ともいいます。

当社の特徴について

Q. ポプラの加盟店が支払うロイヤリティーは他のコンビニエンスストアとどう違うのですか？

- A. ポプラでは売上ロイヤリティー制度を採用しています。
- 一般的にコンビニエンスストアでは、売上高から商品原価を引いた粗利益の35～45%をロイヤリティーとして本部が徴収しますが、ポプラは売上高の3%のみを徴収しています。粗利益の35～45%は売上に換算して10～13%に相当するため、ポプラのロイヤリティーはかなり低いといえます。ただし、利益が上がるほどオーナー様の収入に直結する代わりに、ポプラでは、一般的なコンビニエンスストアのように不採算店に対して利益の補填をする最低保証制度はありません。

Q. ポプラオリジナル「HOT弁当」とはどんなものですか？

- A. 「HOT弁当」のパッケージには「弁当にはあたたかいごはんをお詰めします」のシールが貼られ、出荷、陳列時の商品にご飯は入っていません。どんなに研究を重ね、電子レンジで温めなおしても、一定の時間が経過するとご飯の美味しさは損なわれます。ポプラでは、お客様にいつも美味しいご飯を提供したいという考えから、各店でご飯を炊き、お客様がお弁当をお買い上げの際にご飯を詰めるというスタイルをとっています。

Q. ポプラグループのお店について教えてください。

- A. ポプラグループのお店は「ポプラ」の他に、高級感を打ち出した「生活彩家」、ポプラの関西地区への進出の足がかりとなった「くらしハウス」、関東地区で拠点展開する「スリーエイト」があります。

ニュースリリース

お店の顔であるユニフォームの刷新をいたします。

新体制でスタートした今期は、ポプラはさまざまなチャレンジをしていきたいと考えております。その一環として、お店の顔である従業員用ユニフォームを刷新いたします。

素材では、

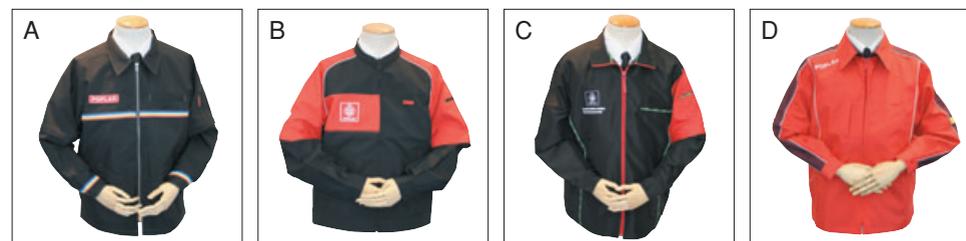
- ・汚れが落ちやすい
- ・丈夫である
- ・色落ち、色褪せにくい
- ・通気性の改善

などの向上を図ります。

また、機能性では以下のような改善を図ります

- ・首廻り：ネクタイも考慮
- ・ポケット：機能を再検討する
- ・背部ウエストループ：毛バタキの装着
- ・名札ループ：見えやすさの改善

・デザイン検討案



来春に全店変更の予定でデザインの最終チェックにはっております。ご期待ください。

ポプラのユニフォームの変遷

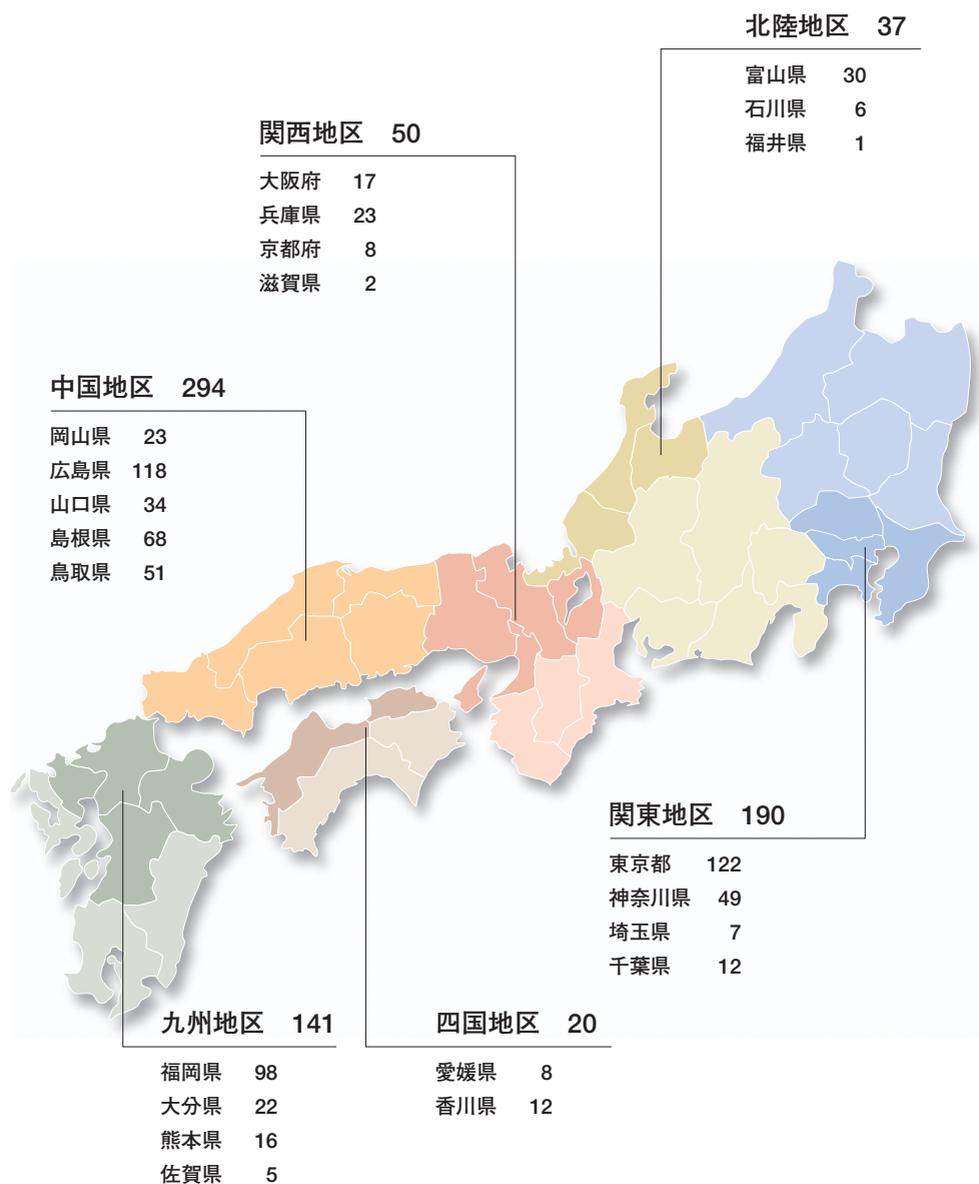
・エプロン（～2006年）



・現行ユニフォーム（2006年～）



平成20年 8月31日現在店舗数 732店舗（直営245店舗）



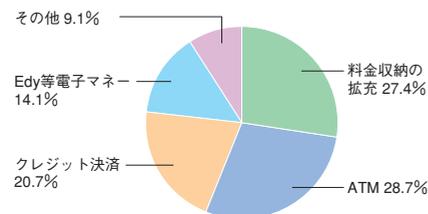
●アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。

平成20年 2月期の第33期事業報告書と一緒に送付させていただいた株主様アンケートは、今回も多数のご回答をいただきました。

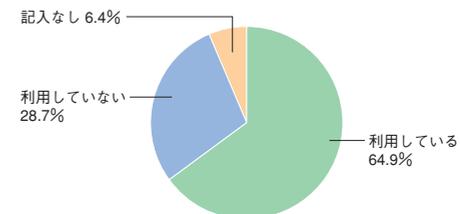
その中のアンケート結果の一部ではありますが、今回も掲載させていただきます。

株主様とのコミュニケーションを深めるためや、株主様の直の声を聞ける機会として、今後も続けてまいりますのでご協力をお願いいたします。

コンビニエンスストアで今後どのようなサービスを期待しますか？



インターネットトレードを利用したことがありますか？



年々インターネットトレードの普及率が上がっています。

店舗出店について

- ・関西地区のさらなる出店に期待します。(大阪府・女性・30代)
- ・近所にポプラができるのを楽しみにしています。(滋賀県・女性・30代)

確実な出店を進めてまいります。

また、店舗のリフレッシュも進めますのでご期待ください。

その他

- ・たきたての新米をほしただけ買えるので大好評です。(石川県・女性・50代)
- ・地域に貢献する企業を目指してガンバッテ下さい。(広島県・女性・40代)
- ・高速道路のSA・PAに積極的に店舗展開し知名度を高めてほしい。(兵庫県・男性・40代)
- ・おいしいお弁当を期待しています。(広島県・男性・50代)

地域に密着した店づくりができるよう商品開発やサービスの充実を図るために商品開発などの組織を変更いたしました。

お客様に喜んでいただける商品開発を目指します。

たくさんのご意見をいただきました。

ありがとうございました。